（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ７ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト　国際学院中学校高等学校（通信制）

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成

重　点　目　標	1　社会性の向上 2　学習力の向上 3　募集力の向上

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員　　４名
事務局(教職員)　７名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ １月３１日 現在 ）			実施日　令和８年２月１２日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	評価委員からの意見・要望・評価等
1	①様々な学習歴を持った生徒が在籍期間中に大きな成長を遂げる姿を見ることができる。一方で、スクーリング以外の出席率が高い生徒と低い生徒の乖離がある。 ②個別対応の必要な場面がこれまで以上に増えてきている。本校の理念について教員、生徒、保護者ともに共通理解を深めていく必要がある。	①自己効力感の向上 ②自己肯定感の向上	①様々な場面で円滑なコミュニケーションを誘導する。 ①生徒が相談しやすい雰囲気作りを心がける。 ①校外学習の充実を図る。 ②家庭、保健部、カウンセラーとの連携を密に進める。 ②生徒指導を要する場合、必ず複数教員で対応する。	①学校行事に生徒が主体的に関わることができたか。 ①生徒が自信を持って学習目標や進路目標を考えられることができたか。 ②教職員全体での組織的な生徒対応ができたか。	①生徒同士で長所を活かし短所を補い合う場面が多く見られ、学校全体が落ち着いた良い環境となっている。 ①昨年に引き続き、調理実習や栄養学、農業研修などで高大連携を行うことができ、定例として行える兆しがある。 ①生徒が自主的にSDGs活動に参加する場面があった。 ①スクーリング以外での出席率が低下している。 ②生徒対応については、個別での情報交換が多かった。	B	スクーリング以外の授業や学校行事において、やや出席率が低下している。 学校行事等出席出来ている生徒の成長は目覚ましいが、出来ていない生徒への対応が課題。 来年度は自己分析診断の実施や、進路イベントを増やすなど、生徒自身が出席する意義を見出しやすい行事を増やす。	通信制課程については、全日制に毎日通うことが難しい事情を抱える生徒にとって重要な学びの場となっていることが指摘された。具体的には、不登校経験、体調面の課題、起立性調節障害など、多様な背景をもつ生徒の受け皿となっている実態が共有された。 また、通信制の生徒集団の特徴として、落ち着いた人間関係が形成されやすく、穏やかな雰囲気が見られる点が外部からも評価されているとの説明があった。こうした環境面のメリットは、様々な事情を抱える生徒が安心して学べる要因の一つであるとの認識が示された。 さらに、通信制において生徒の主体性を育てようとしている学校の姿勢について、委員から肯定的な受け止めが示された。
2	①教員の質問や学校で自主学習を行う生徒は増えてきているが、レポートをすべて提出後はそういった時間が減ってしまう生徒も多い。より学習目標を持ってもらう方策が必要。 ②面談の際担任以外の教員も参加や、進路状況の共有など、生徒の学習状況等担任以外でもより把握出来るようになった。 ②自立した進路選択二極化しており、卒業後のキャリアについてイメージを持たせる指導が必要となっている。	①学習基盤の定着 ②確かな進路選択	①生徒にレポート提出期日をより意識してもらう。 ①各自の進路実現に向けた計画的学習スタイルを確立させる。 ①②生徒が個別で質問をしやすい環境整備を進める。 ①②定期的な二者面談、必要に応じて三者面談を実施する。 ②外部講師による進路講演を実施する。	①期限内でのレポート提出と再提出なく合格点となっているか。 ①生徒各自の計画に基づいた学習習慣が身についているか。 ②自分の適正、資質にあった進路選択となっているか。	①レポートの提出状況が余裕を持って提出生徒とぎりぎりになって提出する生徒の差が大きい。 ①学習習慣が身についている生徒とそうでいない生徒の二極化が進んでいる。 ①個別指導を求める生徒への対応ができている。 ②まだ学習目標や進路目標が定まっていない生徒も多い。 ②第三学年25名在籍中、進学希望者21名（大学16名、専門学校6名）、その他4名	B	通信制の特性を活かし主体的に進路を決めている生徒も多く見られるが、反対に、決定を先延ばしにし、最終的に無理やり進路を決めてしまっている生徒もいる。 No1と同様に、進路イベントを増やし、より自分事として捉えられる機会を増やしていき、将来のイメージ像を模索できる整備を進める。 新コース設置案など、生徒の特性を棲み分けし、それに応じた指導を検討する。	通信制においては、学びの途中で目標を見失い退学に至るケースがあることに触れられ、「なぜ学ぶのか」という目的意識を持たせることの重要性が指摘された。多様な見方・考え方を身につける学びの意義を生徒に伝えていく必要性が示唆された。 また、進路指導については、大学進学そのものをゴールとするのではなく、大学入学後の学修まで見通した指導が望ましいとの意見が出された。 加えて、AI活用が進む現状を踏まえ、AIが生成した情報をそのまま用いるのではなく、内容を精査し、自分の考えとして再構成する力を育てることの重要性が述べられた。AIは避けるものではなく、適切に活用しながら学力形成につなげていく視点が必要であるとの見解が示された。
3	①昨年行った教室の配置替えや第二職員室設置のほかに、短期大学の空き教室等を利用したことにより、校内での生徒の勉強場所や行動範囲が拡大している。 ②入試日程の見直しと新たな入試制度を取り入れ、通信制合格者数が増大した。 ②教育活動を優先することが多く、対外的な募集活動が滞りがちになっている。	①教育環境の公表 ②募集活動の強化	①ホームページや文化祭、広報物の作成など、より周知の方法を増やしていく。 ②受験相談者に対応 ②訪問活動を分担する。	①校外行事等学習成果を対外的に広く公表できたか。 ②受験相談者が増加したか。 ②受験者数は増加したか。 ①②転学を含む入学生が増加したか。	①ホームページや文化祭などで教育活動の成果を広めてはいるが、広く濃く周知できたとは言い難い。 ②入試日の変更、本校全日制受験者の通信合否判定を整備したことで、通信合格者数が増大した。全日制受験者のうち206名が通信制での合否判定も希望した。うち15名が通信制での合格であった。 ②Ｒ６年度転学者数計７名 　Ｒ７年度転学者数計８名 ②週4日制となってから通信単独での学外募集活動が滞り、全日制との合同に頼っている。	B	入試日程や制度については一定の効果があった。 現在本校通信制があること自体知らない受験生が多いと感じている。来年度は募集行事や募集活動を大幅に見直す予定。	通信制課程については、スポーツ活動や芸能活動との両立、不登校経験など、多様な理由で選択される教育形態であり、今後も需要が高まるとの認識が示された。また、通信制は学習機会の保障という観点から重要な役割を担っているとの評価があった。 一方で、通信制を必要としている家庭に十分情報が届いていない可能性が指摘された。広報面では、現在の視聴傾向を踏まえ、長時間の動画よりも、記憶に残る短いショート動画の活用が効果的ではないかとの具体的提案があった。部活動の試合映像の一部を切り出すなど、気軽に視聴できる形での発信も有効との意見が示された。 さらに、通信制のメリット（自分のペースで学べること、オンライン活用の利点等）を前向きに発信し、生徒の自信につなげていくことへの期待が述べられた。